

====今月号は2ページ建てでお届けします。====

トピックス 瑞江鶴の会に新師範誕生

10月15日に江東区の深川体育館で開催された秋の指導者研修・審査会において、瑞江鶴の会（江戸川区）の八武崎ユキエさんが師範になりました。おめでとうございます。なお今回の審査会では合計155の方が新師範に昇格されたとのこと。瑞江鶴の会の師範は、これで7名となりましたが、来年創立25周年を迎える歴史の長い会ならではのことといえます。



北地域・野外太極拳の集いに参加

去る10月24日に台東区谷中の「初音の森」広場で開催された標記の集いは、約600人がお揃いのTシャツで参加して盛大に開催されました。私の担当教室からも瑞江鶴の会、亀戸SC教室、東大島鶴の会、代々木鶴の会から25の方が参加して皆さんと交流いたしました。10月は「楊名時八段錦・太極拳50年」の祝賀行事が全国で開催されていますが、今回の集いもその一環として行われたものです。



【写真提供 上；亀戸SC

教室田中美智子さん・中；蒔澤徹理事・師範・下；本部事務局山崎明雄さん】

左顧右眄～さこ・うべん～（44）【第5話 「道教」について】

7) おまけの話

「第5話 道教について」は前号で終る予定でしたが、ちょっと、おまけの話を書きます。

前号で、幕末の国学者「平田篤胤^{あつたね}」のことを書いたのですが、それをお読みいただいた中野完二先生からさっそく貴重な情報をいただきました。それは平田篤胤を祀る神社が南新宿にあるというもので、先生が現役の時勤められていた文化出版局の裏手に小さな祠のようなものがあってそれが平田神社だというお話でした。私が教室を持っている新日鐵研修センターからもすぐ近いところですよと教えていただきましたので、さっそく探してお参りをしてきました。建て替えられたのか、マンション

の一階部分に鎮座する立派な神社になっていました。

前号では筋書き上、平田篤胤の神道説図が道教神の系譜図に酷似していることを中心に書きましたが、それだけでは彼の偉大さとか、後世への影響とかを軽視している恨みがありますので、少し補足いたします。

戦後の日本で中国古代思想の研究者として、なかでも道教研究の第一人者として著名な福永光司先生（1918～2001）はその著書「道教と日本文化」の中で、平田篤胤についてこういう趣旨のことを書いております。いわく“この時代において平田篤胤ほど広く深く中国の古典を読みこなし、研究したものはいない。（そればかりか西欧の科学、宗教、語学の研究にも熱心であった）”“日本の神道が中国の道教と密接な関連を持つことを深刻に認識していた。”“ただし彼の結論は逆立ちしていて、日本の神道は中国の神道（道教）の本家であると強調した。”云々というものです。

これを私の視点で解説すれば、篤胤が研究すればするほど、中国の道教が日本より古くかつ精緻なことがわかってきたけれども、古事記、日本書紀にある天皇家の歴史、つまり、神武天皇は皇紀元年（西暦では紀元前 650 年）に即位したという記述から逃れることは出来なかったからということになります。彼は尊王思想を国学として理論的に補強することが使命であったのですから、これは当然のことではあります。

しかし現在では、神武天皇即位はあくまで神話に近いものであって、実際に大和朝廷が成立したのは 3、4 世紀ごろ以降ということになっていますので、もちろん道教のみならず、儒教も仏教も中国から直接、間接に大和朝廷が取り入れたものであるとだれでも矛盾なく言えるわけです。

彼の主張には尊王攘夷派の武士や神官のみならず、全国的に農村部の地主層から農民層まで広い支持基盤があり、多数の門下生が育ったとされています。彼は幕府の忌諱に触れて国許の秋田に返されてまもなく天保 14 年（1843）に死亡しますが、明治維新の思想的なバックボーンを果たしたことは高く評価されています。維新後において廃仏毀釈運動の先頭に立ったり、政府内で国家神道への法制化の中軸にあったのも、彼の子供やこれらの門下生たちでした。

いろいろな見方はありますが、大きな影響力を持っていた偉人であることは間違いのないところです。ちなみに島崎藤村の「夜明け前」はまさに、平田派の国学を学んだ彼の父島崎正蔵（小説では青山半蔵）の明治維新史そのものであることを今回、平田篤胤を研究して知ることが出来ました。

長々と「道教」についてお付き合いいただきましたが、これで終わりとしします。

旅をうたい拳を詠む あきうらら 秋麗

薫りきて見返りみれば夕陰に
金木犀の咲きあふれをり
つの代わりいを入れたれど馥郁と
炊き上がりたりまいたけ飯が
秋晴れのお江戸の空を突き上げて
スカイツリーは 6 3 4 へ伸び行く

【写真は 4 9 7 M まで伸びたスカイツリー・
10 月 23 日、亀戸天神にて撮影】

